

出張報告書



令和7年10月31日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 日本維新の会

代表者氏名 高谷浩司

出張者氏名 山崎 藍子

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和7年10月30日から令和7年10月30日まで

2 結果の概要

用務先 ・福井市	報告事項（この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付） 中核市サミット 2025 in 福井 1 スポーツを通じた楽しいまちづくり
添付書類 ☒ 出張調査報告書 ☐ ☐ ☐	備考

3 届出事項の変更等 ☒ なし ☐ あり（内容は裏面に記載）

旅費の精算

☒ 精算額は、令和7年8月29日届け出た額（7,560円）と同一額である。

☐ 届出事項の変更等により、別途精算する。（精算額は裏面に記載）

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

月	日	日	日	日	日	日	日
前 発着地							
後							
前 経 路							
後							
前 用務先							
後							
前 宿泊先							
後							

【日時】2025年10月30日（木）

【視察先】福井県福井市 中核市サミット2025

【参加者】山崎藍子

【報告者】山崎藍子

【概要】幸福を実感できる中核市の実現～一人ひとりが紡ぐ 希望あふれるまちづくり～

●基調講演 東京大学社会科学研究所 宇野重規教授

「地域から新しい日本をつくる～中核市に何ができるか～」

【講演概要】

・地域からの再出発と「挫折の力」

「挫折経験こそが未来への原動力」と語り、困難を抱える地域ほど再生の可能性を秘めていると指摘。トクヴィルの思想を引きながら、地方が民主主義の実験場として新しい社会モデルをつくる意義を強調した。

・人口減少と社会構造の変化

増田寛也氏（元総務相）の提言「地方消滅」から10年。出生数の急減やコロナ禍の影響を受け、今後日本の人口は5,000万人を下回るとの推計も示された。

「人口の奪い合い」ではなく、地域間の共存・補完による持続可能な国土形成が求められている。

・所有から利用へ

空き家・空き地・森林などの「所有者不明土地問題」が災害復旧や地域活性の妨げとなっている。強すぎる所有権概念を見直し、「使いたい人が活用できる」制度改革の必要性が議論された。

・国と地方の新たな関係性

自治体の「自前主義」から脱却し、自治体間連携・官民連携・デジタル共有基盤による“分担と協働”の時代へ。

地域ごとの個性を活かしながらも、共通プラットフォーム上で行政を効率化することが重要とされた。

・DXとデザイン思考

DXの本質は「デジタル化」ではなく、ユーザー中心の行政改革。

政策の起点を「作り手」から「受け手」へ転換し、デザイン思考を行政に取り入れることで、市民が「相談しやすく、分かりやすい」行政を実現する方向性が示された。

・市民参加とデジタル民主主義

バルセロナ発のオンライン対話ツール「DECIDIM（デシディム）」が紹介され、加古川市や渋谷区など国内でも導入が進む。リアルとオンラインの両面で市民の声を反映する仕組みづくりが、今後の自治の鍵となる。

・地域経済と新しい価値観

地域内循環経済の構築、ゼブラ企業（経済性+社会性を両立する企業）への注目が紹介された。

「希望学」や「地域ポテンシャル」という視点から、地域の潜在力を発掘・循環させる仕組みづくりが重要との提起があった。

【所感】

宇野先生の講演では、これまでの発想を転換し、「日本の良さが時に課題にもなる」という視点から、地域が自らの強みと弱みを見つめ直す必要性を改めて感じました。複数地域との関わりを持ち、関係人口を広げていくことが、これからのまちづくりの鍵になるというお話は、尼崎市にも通じるものがあると感じました。副業・兼業・社会貢献などを通じて、人・企業・資源をつなぐ新しいネットワークづくりに取り組むことで、地域の活性化につながる可能性があります。

また、「所有から利用へ」という発想転換は、空き家や遊休地を地域の共用資源として再活用する取り組みとして非常に示唆的でした。何かを始めたい人や地域で活動したい人を後押しする制度整備にもつながると考えます。

さらに、尼崎市でも若者向けに導入しているデシディムなど、市民の声を可視化する仕組みをより広く活用し、「わかりやすく、アクセスしやすい行政」を実現していくことの重要性を感じました。DX とデザイン思考による行政サービス改革は、今後の行政運営のあり方を大きく変えていく可能性があります。今回のサミットを通じて、全国の中核市が共通の課題を抱えていることを実感しました。特に子育て支援や防災、空き家対策など、阪神間でも共有できるテーマが多く、広域的な連携による課題解決を進めていくことが必要です。一方で、制度や施策が現場と乖離しないよう、実情に即した形で進めていくことも大切だと感じました。

これからも、市民一人ひとりの声に寄り添いながら、より住みやすい尼崎のまちづくりを進めていきたいと思っています。

●中核市サミット2025年 福井パネルディスカッション

「スポーツを通じた楽しいまちづくり」

パネリストとして、富山市 藤井市長・西宮市 石井市長・福井市 西行市長からそれぞれ自市の取り組みについて発表がありました。

・富山市の取り組み

富山市では、縦横に整備された交通網を生かして人の流れや交流を活発化させ、都市全体の一体感を高めている。

老朽化した体育館の活用策として、**「富山市総合体育館」を対象に R コンセッション事業（官民連携）**を導入。2016 年から B リーグ「富山グラウジーズ」のホームアリーナとして活用している。

事業期間は 15 年、総事業費約 80 億円で、運営経費の約 1 割削減を実現。立地の良さから周辺地域への経済波及効果も見込まれている。

さらに、駅前スポーツイベントの開催や市民球場の整備、野球教室などの市民参加型イベントを通じ、スポーツを軸とした交流人口の拡大を図っている。

・西宮市の取り組み

西宮市では、甲子園球場を中心とした「ボールパーク構想」を推進。試合のない日でも人が集うにぎわい

の創出を目指し、周辺の空き地を活用した新たな交流エリア整備を進めている。

また、引退したプロスポーツ選手を再雇用し、学校や地域のスポーツ教室に派遣する仕組みを導入。子どもにとっては一流選手から学べる貴重な機会となり、選手にとっても新たな活躍の場を提供している。来年度以降の部活動地域移行にも関連づけ、子どもたちが「やってみたい」と自主的に参加できる環境づくりを目指している。プロ試合でのボール拾いなど、現場での体験を通じて子どもの成長と地域スポーツ文化の継承を図る取組みが紹介された。

・福井市の取組み

開催地の福井市では、「ダンス」をまちづくりの中心に据えた特色ある取組みが行われている。

オープニングでは、映画『チア☆ダン』のモデルにもなった福井商業高校チアリーダー部「JETS」による元気なパフォーマンスが披露された。

ダンスのジャンルはブレイキン、ヒップホップ、コスプレなど多彩で、初心者でも始めやすく、世代を問わず参加できるのが特徴。

学生アンケートを通じて決定されたこの方針により、駅前広場や大通りを活用した「ダンス×食」のイベントが定期的で開催され、多くの市民が参加している。

さらに、地元トップスポーツチームとの連携や大規模アリーナ建設の計画も進められており、より一層の交流とにぎわい創出を目指している。

総括では、スポーツは世界屈指の巨大成長産業として注目されており、世界市場は4849億ドル。今後10年で1.8倍になるとも試算されている。スポーツはあらゆるステークホルダーに貢献できる万能コンテンツであり、あらゆるものとの親和性が高い。スポーツを通じて幸福度を上げる、心をはぐくむもの。市民の笑顔につながり人の感情もデザインできるまちづくりを目指していきたい、と締めくくっていました。

【所感】

パネルディスカッションでは、富山市が官民連携によるアリーナ運営で交流人口を拡大させた事例、西宮市が甲子園球場を核としたボールパーク構想を通じて地域活性化を進めている取組み、福井市がダンス文化を中心としたにぎわい創出を図っている事例など、いずれも「スポーツ×まちづくり」の多様な可能性が示された。特に、スポーツを「健康」「教育」「地域経済」「雇用」と結びつけ、世代を超えて人と人をつなぐ仕組みとして位置づけている点が印象的であった。

総括として、スポーツは世界でも急成長する産業であり、同時に地域の幸福度を高める力を持つ「万能コンテンツ」であるとされた。市民の笑顔と活力を生み出す源として、スポーツを通じたまちづくりは、今後の中核市にとって重要な戦略分野になると感じた。

これらの講演と討議を通じて、尼崎市においても、

- ・ 他都市との連携による広域的課題の解決、
- ・ 市民参加を軸とした政策形成、
- ・ スポーツや文化を通じたまちの魅力発信、

などをさらに推進することが求められると実感した。

市民が主体となり、笑顔で関わり合える“地域から日本をつくる”まちづくりを目指していきたい。

●「地域から新しい日本をつくる」というメッセージは、単なる地方分権ではなく、地方が未来の実験場となる覚悟を意味している。

人口減少時代においても、地域同士が連携し、市民と共に新しい価値を創造する中核市の役割がますます重要になると感じた。

まちづくりとは、人が活き活きと楽しく活動しているまちの風景をつくっていくこと

今回の視察先での印象でいうと、福井といえば「恐竜」ということで駅前には何体かの動く恐竜がいて写真撮る人も多かった。これも一つ駅前の顔を作り出しているのだと感じました。

富山市総合体育館Rコンセッション事業

✓ 駅北エリアにおいて、2000年とやま国体の開催に合わせて、1999年に建設された「富山市総合体育館」の長寿命化と収益化への対応が課題。2016年から「富山グラウジーズ」のホームアリーナとしても使用。

■Rコンセッション事業の導入背景

(施設の課題、周囲の状況)

- ・施設の老朽化(築25年以上)、維持管理費、収益化
- ・コンパクトシティ戦略への貢献(南北一体的まちづくり)
- ・様々な施設が整備、集積する「駅北エリア」に立地 等

①国の「スタジアム・アリーナ改革」の推進

※アリーナによる「まちづくり」に寄与する施設へ

②室伏スポーツ庁長官との意見交換

※官民連携による民間活力の導入可能性について

③富山グラウジーズのBプレミア参入表明



富山市総合体育館(外観・現況)



★ Rコンセッション事業の実施決定

【期間:15年、事業費:約80億円】

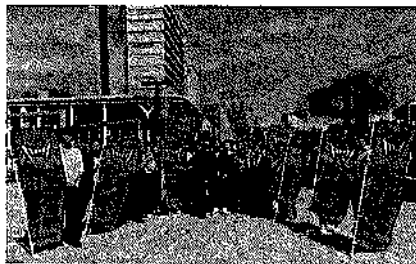
※既存体育施設では、日本初のスキーム

TOYAMA CITY

1066万円の経費削減へ

「駅北エリア」での「富山グラウジーズ×民間」との連携活動

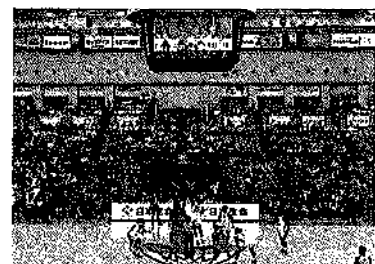
✓ 富山駅周辺で活動する、まちづくり団体や企業を中心とした組織「一般社団法人トヤマチミライ」が2024年5月に設立。本市や富山グラウジーズも連携し、駅北エリアの賑わいを創出



ホームゲーム開催時にのぼり旗



ホームゲーム開催時にブース出展



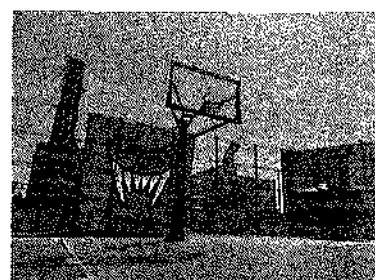
富山市総合体育館(試合)



アツハサダー任命式



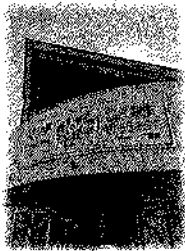
富山市駅内イベント



3x3バスケットコート

TOYAMA CITY

地域活性化



甲子園歴史館
(市営住宅跡地)



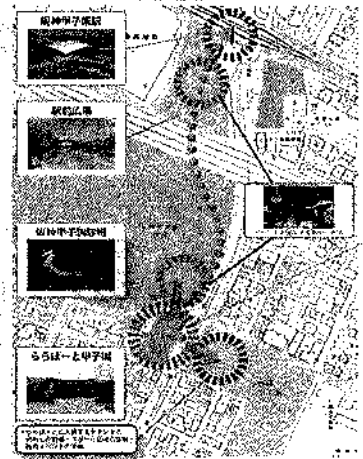
① ボールパークエリア整備

市営住宅跡地を活用
球場と一体で賑わいエリア創出



駅～球場～市営住宅跡地～商業施設

365日にぎわいのあるボールパークエリア形成
に拘った国鉄戦線イメージ



野球がな・日も盛り上がる甲子園エリア活性化へ
参画(Co-Work)

地域活性化



② 産官学民一体となったイベント・情報発信

スポーツを核とした甲子園エリア
活性化推進協議会を発足

構成団体(全7団体)



地域一体で賑わいエリア創出

甲子園スタイル



2-4. ダン☆スタ FUKUI 2025の様子

まちなかをダンス一色へ

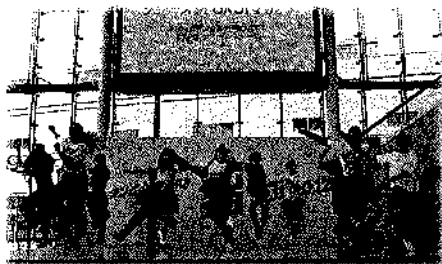
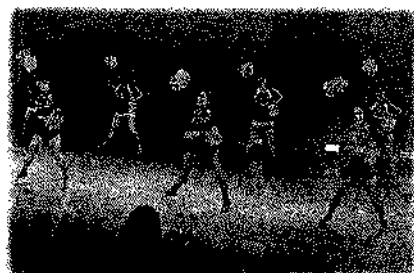
ブレイキン



ヒップホップ



チアダンス



特別ステージ



着目点がい

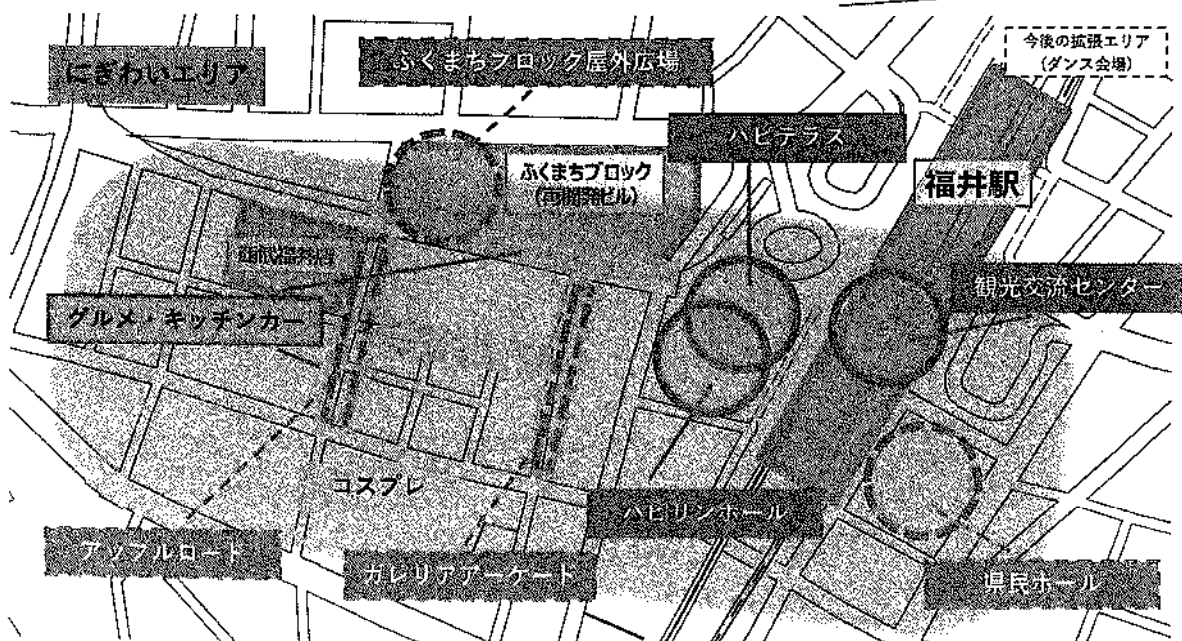
ダンス
コンテスト

5

ダンス と 食 の イベント を か け 合 わ せ て

2-5. ダン☆スタ FUKUIの今後の展望

まちなかをダンス一色へ



6